

元気を「こうかん」

ある日、見守り協力員の石岡さんが、「ちょっと自慢みたいだけれど」と柏木ボランティアコーナーに1通の封書を持って来られました。封筒の中には、カラフルな文字で大きく『石岡さんへ』と書かれたカードが入っていました。

話の始まりは令和元年11月、淀橋けやきばし公園で開催された『柏木・角筈わいわいマルシェ』にさかのぼります。このマルシェは、プレイパーク※1団体と柏木・角筈社協部会※2の共催により、多世代の居場所づくりをテーマに、町会や角筈カフェなど地域の方々のご協力により開催されました。マルシェに訪れた石岡さんは、そこで西新宿小学校のスクールコーディネーターと出会い、小学校でボランティア活動することになりました。子どもたちと一緒に『まち歩き探検』をしたり、『昔遊び』の体験授業でこま回しなどを教えたり、世代間の交流も生まれていた矢先、新型コロナウイルスの影響で突然休止となってしまいました…。そんなある日、さびしい思いをしていた石岡さんのもとに冒頭で紹介した封書が届きました。それは、『まち歩き探検』を一緒にした子どもたちからのお礼のメッセージでした。

石岡さんは言います。「ボランティアは違う世代間で交流できるのがいいですね。ボランティアは楽しくやりたい。楽しくなければやらないほうがよい。お互いに元気をこうかんできるのがボランティアなのですよね！」石岡さんの言葉を聞いて、「こうかん・交換・交感・交歓」いろいろな「こうかん」を思い起こしました。一日も早く、感染症を気にせず元気を「こうかん」できる日が来ることを期待したいです。



- ※1 子どもが思いきり外で遊ぶことができるように、地域の大人達が見守り、支える子どもの遊び場。
- ※2 新宿社協の事業を通じて、地域の解決すべき課題について協議する会議体。